

防災会からのお知らせ

子ども達が被害になる犯罪が急増

日本の安全神話も残念ながら少しずつ崩れてきています。特に近年、弱者である子どもたちが犯罪の被害になるケースが増えています。子ども達自身も「自分の身は自分で守らなければならない」時が来ています。

子どもが被害にあう時の特徴

1. 一人でいる時の方が狙われやすい
2. 言葉巧みに誘い出すため思わずついていってしまう
3. 犯罪に巻き込まれても誰にも言わないことがある

子どもを犯罪から守るためのポイント（危険回避の方法）

1. 知らない人についていけない
2. 一人にならない
3. 家を出る時は家の人に、誰と、どこで、何をするか、何時ごろ帰宅するかを言う
4. 恐い時は大きな声で助けを呼ぶ（声を出すと未遂が多い）



以上の事をくり返し教え習慣化させてください。また、日常生活の中で危険回避の方法を、子どもが理解できるように具体的に教えてください。

家のまわりに危険な場所がないか、子どもと一緒に考えてみてください。

大人の目と子どもの目では、危険な場所が異なる場合もあります。また、普段、子どもが行く場所と大人が行く場所も違います。子どもと一緒に散歩でもしながら、どんな場所が危険かを一緒に考えてみましょう。そして、それをもとにして、どんな対応方法をとったらよいかを話し合ってください。

一方通行ではなく「あなただったらどうする」と問いかけてみましょう。

「こうしてはいけない」「ああしてはいけない」と一方的に教えるよりも、日常生活で危険性のある場所に行った時など「あなただったらどうする」と聞いてから正しい方法を教える方が、子どもの防犯に対する意識が高まり効果的です。

繰り返し子どもに問いかけて、しっかり身につくように、ご指導ください。

子どもへの防犯指導は、「繰り返し」が基本です。日常生活の中で、何回でも繰り返し指導するようにしましょう。

地域の皆さんと協力して子ども達を犯罪から守ることが必要です。

家族、学校、地域みんなが連携して防犯対策をすることが、子ども達を犯罪から守ることにつながります。お互いに協力して、子ども達にとって安全・安心な地域にしましょう。